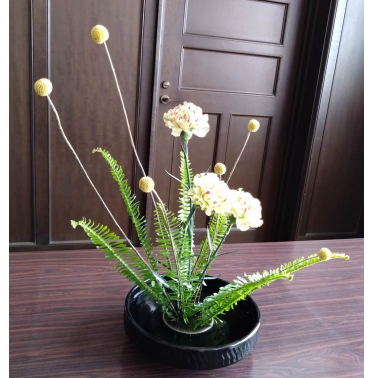


## 「心の扉を叩いたら」

県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ 朝の校長室で見つけた「ならでは」

月曜の朝、校長室に入ると目の前に春。『初めまして。華道部です。今日のお花は春らしい暖かな色で、気持ちが明るくなります』というメッセージが添えてあります。華道部の生徒が飾ってくれていたのです。花材はカーネーション、イエローボール、タマシゲ。近年、様々な色のカーネーションを目にしますが、選んでくれたカーネーションはとても優しい色で、気持ちを穏やかにしてくれました。有り難うございます。



「神戸高校ならでは」の贈り物ですね。「ならでは」といえば、4月当初の対面式がそうでした。主催者は自治会ですから、私は「自治会執行部から依頼されての開会挨拶」ということで、1000人を超す生徒が立ち並ぶグラウンドで1人、マイク前に立つことになりました。

そう言えば、かつて岡野先生が言っておられました。「ああいう時間に何を話せるかは大切なんですよ」と。「頼まれて話をする以上、生徒の心に響く話ができないと意味がないんです。そのプレッシャーはそれまで感じたことがないくらい大きなものでしたよ」と。ともあれ私は、1年生から順に話しかけることにしました。

1年生の皆さん。入学式での校歌斉唱、来賓の方からとても喜ばれました。「よく声が出ていた。しかもきれいだっ」と。同窓会やPTAの方にとっては大切な校歌です。まずはお礼を言いたいです。本当に有り難う。

あの時、僕は言いましたね。「しっかり学ぶ高校生活を」と。ちなみに古語では「学ぶ」と書いて、「まねぶ」と読みます。「まねぶ」、つまり名詞の「まね」に動詞をつくる接尾語「ぶ」をつけることで、「まねする」という意味になります。何かを「まねぶ」ためには模倣から始めましょうと、昔から言われていたのですね。部活動でも学校行事でも学習でも、まずは目の前の先輩を真似てみましょうか。それが学ぶ第一歩ということです。

次に2年生。2年生は幸せですね。まだ目の前に3年生がいます。1年間は学び放題です。人がいちばん伸びるのは「こうなりたい」というロールモデルに出会えた時です。今のうちに真似して、ぐんぐん伸びましょう。

さあ、3年生。どうしますか。卒業生の先輩や先生方からも学ぶことはできます。でも、それはそれとして「今の自分をどう見せるか」にも拘ってくれと嬉しいですね。見た目ではなく、立ち居振る舞いを着飾る、それだけでも自分が伸びることにつながります。3年生が魅力的であればあるほど、下級生も魅力的になりますからね。

ちなみに僕は校長室の扉は普段から開けることにしています。開いているときは出入り自由です。こちらから扉を開かないと、相手は心を開いてくれませんからね。校歌にありますよね。『むねのとを ひかりにひらけ』と。前の学校でも入ってきて、話してくれる生徒がいました。皆さんもよかったらどうぞお入りください。

さて、「神戸高校の生徒を魅力的にするのは3年生ですよ」と言いながら、同時に僕ら教職員も頑張りますね。お互いに魅力的な人でありましょう。ということをお伝えして、僕からの挨拶とさせていただきます。

### ○ イエローボールの花言葉から

イエローボール、通称クラスペディアは黄色い花が長く美しく咲き続けることから花言葉は『永遠の幸福』。贈り物にふさわしい花とされています。また、その形状が太鼓のバチに似ていることから『心の扉を叩く』との花言葉もあります。これから何度も私には話をする機会が訪れるでしょう。その時、1度や2度は誰かさんの心の扉を叩いたら嬉しいですね。トントントンって。

